

光輝アル白色稜柱晶或ハ白色結晶粉ニシテ苦味ナ有シ亞兒加里反應ヲ呈ス
 水ニ溶解スルコト極テ難ク(純エーテル)(コロロホルム)及ヒ(ベンゾル)ニ溶解スルコト亦僅微ナリ
 熱最強酒精乃至零八三ニハ全ク溶解セサルヘカラス而シテ其ノ溶解スルヤ頗ル容易ナリ(酸類及ヒ
 (腐蝕加里)或ハ(曹達)ノ滷液ニハ極テ容易ニ溶解スヘシ而シテ滷液ニ溶解スルニ當テ安母尼亞幾臭ヲ放
 ツヘカラス

乾ケル硝子管ニ容レ微火ニテ煖ムレハ熔煉シ白金葉上ニ強ク熱スレハ炭化シ終ニ全ク燃燒シテ固形物
 ナ遺スコトナシ無機性混合
物ナキノ微

(稀硫酸)ヲ以テ酸性トナシタル水ニ溶解セシ者ハ(重炭酸加里)ノ冷飽和溶液ニ逢テ濁濁スヘカラスナル
コチ
ネニ幾ナルカカコ井
トト異ナルノ微

太々稀薄ナル(硫酸)ニ「モルヒネ」ヲ溶解シタル者ハ(流動安母尼亞)ニ逢テ結晶近ナ生セサルヘカラス此
 沉淀ハ(腐蝕曹達)ニ逢テ直チニ全ク消滅スヘシナルコチネト
異ナルノ微

硝酸ヲ以テ酸性トナシタル水ニ溶解シタル者ハ(コロロル化バリウム)ニ逢テ濁濁スヘカラス硫酸モル
ヒネ及ヒ
マサルノ微

此溶液ハ(硝酸酸化銀)ニ逢テモ亦濁濁スヘカラス硫酸モルヒネ及ヒコロロ
ル化金屬ヲ含マサルノ微

(強硫酸)ヲ「モルヒネ」ニ注ケハ無色ノ溶液ヲ成スヘシ此溶液久シク時ヲ經ルノ後チハ赤色ヲ呈スルモ妨
 ケナシ「アミクダリ」ネ「サリシネ」ヲエラトリ
ネ「サルコチネ」砂糖等ヲ混セサルノ微

「モルヒネ」ヲ(稀醋酸)ニ溶解シタル中和液ハ(醋酸安母尼亞)ノ爲メニ混濁スヘカラス石灰鹽ヲ混
セサルノ微

「モルヒネ」少許ヲ時表硝子ニ盛り之レニ(第二コロロル化鐵)ノ稀薄中和溶液一兩滴ヲ點スレハ藍色或ハ
 帶藍綠色ヲ呈スヘシ

モルヒネ少許ヲ時表硝子ニ盛り之レニ(強硝酸)トノ混合液一兩滴ヲ滴スレハ直チニ暗赤色ヲ呈セサル
 ヘカラス

(沃度酸)ノ溶液ト混スレハ褐色ヲ呈シ之レニ(コロロホルム)或ハ(硫化炭素)ヲ加ヘテ振盪スレハ之ヲ

紫紅色ニ染メ成スヘシ已上ノ三件「モル
ヒネ」實性反應

(甲)醋酸モルヒネ Morphinum Aceticum.

白色ノ粉末ニシテ稍々醋酸ノ臭氣ヲ有ス容易ク水ニ溶解スヘシ殊ニ(醋酸)一二滴ヲ加フレハ其ノ溶解
 ナ促進ス

(亞爾個保爾) 異重零八乃
至零八三ニ溶解スルコト困難ナリト雖モ終ニ必ス全ク溶解スルニ至ルヘシ亞爾個保爾
ニ溶ケサル
無機鹽ナ
キノ微

白金葉上ニ熱スレハ炭化シ著シク殘留物ニ見ルヘカラス殘留物ハ揮發
性ノ無機鹽ナリ

醋酸莫爾比涅ノ水溶液ハ(重炭酸加里)ノ冷飽和溶液ニ由テ濁濁スヘカラス

水溶液ニ(曹達滷汁)少許ヲ加フレハ白色ノ沉淀ヲ生シ過剩ヲ加フルハ更ニ溶解スヘシ「ナルコチネ」
鹽ヲ混セサルノ微

少量ノ醋酸莫爾比涅ヲ時表硝子ニ載セ(第一格魯重鉄稀溶液)一二滴ヲ加フルハ藍色若クハ帶藍綠色ヲ
 呈スヘシ

醋酸莫爾比涅少許ヲ時表硝子ニ載セ(強硝酸)ト(強硫酸)トノ混合液一二滴ヲ加フレハ直チニ暗赤色トナ
 ルヘシ已上二件「モルヒ
ネ」實性反應

(乙)鹽酸モルヒネ Morphinum hydrochloricum.

針様ノ小結晶ニシテ集リテ束絲狀トナリ白色ヲ有ス同量ノ熱水中ニ全ク溶解シテ透明液トナリ試験紙
 ナ以テ中性ノ反應ヲ現ハスヘシ

(温亞爾個保爾)ニハ異重零八乃
至零八三全ク溶解シ透明ノ液トナル無機性ノ鹽類等
ヲ混セサルノ微

白金葉上ニ熱シ炭化スルノ後著シク殘留ス可ラス但シ清淨ナル鹽酸「モルヒネ」ト雖モ多クハ白色灰ノ
 痕跡ヲ殘スコトアルカ故ニ其量極テ少ナケレハ藥用ヲ許ス可シ殘留セル白色ノ灰ハ火
ニ堪ユル無機物ナリ

溶液ニ(コロロル化バリウム)ヲ加フルモ濁濁スヘカラス硫酸ヲ混セ
サルノ微

水溶液ハ(重炭酸加里)ノ冷飽和溶液ニ由テ濁濁スヘカラス「ナルコチネ」
ヲ混セサルノ微

水溶液ニ(曹達瀘汁)少許ヲ注ケハ白色ノ沈澱ヲ生ス此沈澱ハ更ニ多量ノ(曹達)ヲ加フレハ溶解スヘシ

水溶液ハ(中性萆酸安母尼亞)ニ由テ變スヘカラス 石灰鹽ヲ混

時表硝子ニ細末少量ヲ盛リ(第一)コロール化鉄ノ中性稀溶液一二滴ヲ注ケハ藍色若クハ帶藍綠色トナル

時表硝子ニ盛リタル小結晶ハ(強硝酸)ト(強硫酸)トノ混合液一二滴ヲ加ヘテ直チニ暗赤色ヲ呈スヘシ上

(丙)硫酸モルヒネ Morphium Sulphuricum.

白色ノ結晶ヲ爲シ集合シテ束針狀ヲ爲ス容易ク水ニ溶解シ此溶液ハ中性ノ反應ヲ現ハスヘシ

水溶液ハ(硝酸銀)ニ由テ濁濁スヘカラス 鹽酸モルヒネヲ混セサルノ徵

水溶液ニ(重炭酸加里)ノ冷飽和溶液ヲ加ヘテ濁濁スヘカラス ナルコチネ及ヒ混セサルノ徵

水溶液ハ少量ノ(曹達)ヲ加ヘテ白色ノ沈澱ヲ生シ更ニ其過量ヲ加ヘテ全ク溶解スヘシ 石灰鹽ナキノ徵

(第五)アトロピネ Atropinum.

「アトロピネ」ハ無色鐵狀ノ小晶或ハ白色晶狀ノ粉末ニシテ冷水ニ溶ケ難ク熱湯ニハ容易ク溶解ス

(依的爾)ニモ全ク溶解スヘシ 硫酸アトロピネニ混セサルノ徵

(最強酒精)ニ至零八三ニハ容易ク溶解セサルヘカラス 他ノ不溶性鹽類ヲ混セサルノ徵

白金葉上ニ熱スレハ先ツ燃焼シ次テ燃燒シ固形物ヲ殘ス可ラス但僅微ノ痕跡ハ妨ケナシ 固形物ハ無機性耐火物ナリ

其溶液ニ(コロールバリウム)ヲ加フルモ沈澱ヲ生スヘカラス 硫酸アトロピネヲ含マサルノ徵

其結晶ニ(強硫酸)ヲ注ケハ溶解シテ無色ノ液ト爲ルヘシ サリヒネ「アエラトリネ」アリユシネニ混セサルノ徵

(強硫酸)ニ溶解セル者ニ更ニ硝酸一兩滴ヲ點スルモ色ヲ呈スヘカラス モルヒネ「ナルコチネ」アリニ混セサルノ徵

結晶小許ヲ時表硝子ニ盛リテ白紙上ニ置キ(強硫酸)ヲ注テ溶解シ之ニ(硝酸)又ハ(重コローム酸加里)ノ小結晶ヲ加フルニ直ニ色ヲ呈スヘカラス然レトモ少時ノ後ニハ綠色ヲ呈スルコト有リ 色ヲ呈セサルハ「モルヒネ」ヲ混セサルノ徵

(鹽酸)一兩滴ヲ以テ酸性トナシタル水ニ百分中ニ「アトロピネ」一分ヲ溶解シ之ニ(重炭酸曹達)ヲ加フルニ濁濁スヘカラス亦タ樹脂様沈澱ヲ生スヘカラス ナルコチネ「キニ」ニシテ「コロール」ニ混セサルノ徵

(甲)硫酸アトロピネ Atropinum Sulphuricum.

微細ノ結晶若クハ結晶狀ノ粉末ニシテ水ニ溶解シ易シ(亞爾個保爾)ニ至零八三ニ容易ク溶解ス 亞爾個保爾ニ溶解セサルノ徵

(コロールホルム)及ヒ(依的爾)ニハ全ク溶解スルコトナシ アトロピネ「ト」ニ混セサルノ徵

白金葉上ニ熱スレハ初メ熔融シテ終ニハ燃化シ固形物ヲ殘サス 火ニ堪ユル物質ナキノ徵

水溶液ハ中性ニ反應スヘシ

水溶液ニ少量ノ(安母尼亞)ヲ加ヘテ濁濁シ更ニ其過量ヲ注ケハ再ヒ透明トナルヘシ 他ノ「アルカロイデ」ニ混セサルノ徵

時表硝子中ニ置キ(強硫酸)ヲ注クモ變色スヘカラス

時表硝子ニ盛リ(強硫酸)ト(硝酸)トノ混和液少許ヲ滴スルモ無色ナルヘシ 「モルヒネ」及ヒ「ナルコチネ」ト異ナルノ徵

少量ヲ時表硝子ニ入レ(強硫酸)ニ溶解シ(重コローム酸加里)ノ結晶片ヲ投シテ直チニ色ヲ呈スルヲ許サ

(第六)珊瑚尼涅 Santoninum.

細小ナル柱狀或ハ葉狀ノ無色結晶ニシテ光輝アリ光線ニ觸ルレハ淡黃色トナル

微熱ニ熔融シ劇熱ニ逢フテ其一分ハ昇華シ終ニ全ク燃焼シテ毫モ殘留セス

水ニハ殆ント溶解セス「エーテル」中ニハ溶ケ難シ

(コロ、フオルム)中ニハ容易ク溶解ス可シ「コロ」ニハ「弱酸」ナリシトモ「強酸」ニハ「強酸」ナリトモ最強酒精中ニ投シテ煮ルモ亦タ容易ク溶解ス可シ此酒精溶液ニ苛性曹達ヲ加フレハ「カルメーン」様ノ淺紅色ヲ呈ス「サントニーネ」ノ實性反應

(苛性曹達)ノ溶液中ニ煖ムレハ容易ク溶解ス可シ此曹達溶液ニ(コロール水素酸)ヲ加ヘテ其液ノ酸性反應ヲ呈スルニ至レハ更ニ「サントニーネ」ヲ沉澱ス

磁器ニ盛リ(硝酸)ヲ注キテ濕ホスモ變色ス可ラス之レニ僅量ノ(コロム酸加里)ヲ加フルモ亦其色ヲ變ス可ラス「ストリキニーネ」ト異ナルノ微

屢々「アルカロイト」ヲ以テ之ニ層裂シ或ハ之ヲ混スルノコトアリテ甚タ危險ヲ招クモノナリ故ニ大凡三百「ミリグラム」ノ「サントニーネ」ヲ試管ニ投シ之レニ六「カラム」ノ水ト二滴ノ醋酸トヲ加ヘ振盪スルコト半時間ニシテ後之レヲ濾過シ其濾液ニ(鞣酸)或ハ(ピクリン酸)或ハ(ヨード化汞)ヨード化カリウム溶液)ヲ滴入スルモ濁濁或ハ坩渣ヲ生ス可ラス

「サントニーネ」ハ黄色或ハ黒色ノ塊中ニ貯フ可シ

(第七)吐根 Radix ipecacuanhae.

(吐根)ハ其太サ二乃至四「ミリメートル」ニシテ極メテ屈曲シ其表面ニハ結節狀ノ完全ナラサル輪環アリテ互ニ密附疊列スルノ狀ヲ爲ス而シテ甲輪ノ厚部ハ乙輪ノ薄部ニ接著シ斯ノ如クシテ各輪ノ厚部ト薄部ト交々相疊積スルナリ根皮ハ厚ク其質角狀ニシテ光輝有リ剝離シ易シ其外部ハ鼠色ニシテ内部ハ汚白色ナリ

根身ハ細少ニシテ帶黄色ヲ帶ヒ木質ニシテ歲輪髓線及ヒ髓ヲ有セス、

臭ハ劇甚ナラサントモ研末スレハ不快臭ヲ放ツ根皮ノ味ハ苦辛ニシテ不快ナリ

根身ハ無味ニシテ藥効ナシ

此根ハ先ツ緩ニ打チテ根身ヲ去リ外皮ノミヲ研末シ用フヘシ

(第八)寶伎答利斯葉 Folia digitalis.

此葉ハ楕圓或ハ長卵圓形ニシテ其邊緣ハ波紋ヲ爲シ其脚ニ至リテハ長齒狀ヲナス葉面ニハ網狀ノ脈理ヲ有シ上面ニハ皺襞アリ下面ニハ軟毛アリ主莖ヨリ生スル葉ハ長キ葉柄ヲ有シ高位ノ葉ハ葉柄ヲ闕ク味ハ不快ニシテ苦シ

(第九)キナ皮 Cortex chinno.

キナ皮トハ Cinchona, ノ種族ニ屬スル種々ノ樹皮ノ總稱ニシテ其ノ類極メテ夥シ就中饒多ニシテ醫藥ニ撰用スルモノハ左ノ種類ナリ

(甲)王キナ皮又(カリサヤキナ皮) (イ)扁平片 (ロ)管狀片

(乙)褐色キナ皮又鼠色キナ皮 (イ)扁平片 (ロ)管狀片 (ハ)鼠色キナ皮 (ニ)褐色キナ皮

(丙)赤キナ皮

(甲)カリサヤキナ皮又王キナ皮 Cortex chinno Calisayae, Pennyanus Regins.

王幾那皮ニ扁平片ト管狀片トノ別アリ

(イ)扁平王キナ皮 Cortex chinno calisayae Planus ノ内皮ナリ厚サ一乃至二センチメートルノ扁平片ニシテ帶赤黄色ナリ

横截ノ面ニ檢スレハ各個ノ皮纖維ノ光線狀ニ集列スルモノヲ認ム外面ニハ太々淺ク稍且殼ニ類スル凹窪アリ時トシテハ一部ニ表皮ヲ殘スコトアリ

横折シテ檢スレハ殆ント均同ナル短キ強纖維ヲ見ル

内面ハ滑澤ナレトモ稍挺出セル皮纖維著シク光輝ヲ有ス固有ノ臭氣アリテ味ハ太々苦シ

(ロ)管狀王キナ Cortex chinno calisayae convolutus ハ直徑一乃至四「センチメートル」アリテ管狀ニ卷回シ暗黝褐色或ハ帶白色ナリ

管ハ縱皺ヲ有シ不整ニ卷回ス

外面ニハ縱皺ノ外尙ホ横走セル深溝アリ之ニ由テ其面ニハ長四角形或ハ菱形ニ分ル各稍挺出セル縁ヲ有ス之ヲ剝ケハ下ニ肉桂様褐色ノ内皮アリ

管ノ内壁ハ暗褐色ニシテ縦走セル淺色ノ皮纖維ヲ認ム
 横折スレハ外皮ノ折痕ハ平等ニシテ内皮ノ折痕ハ平等ニシテ内皮ノ折痕ハ纖維狀ナリ外皮ノ厚サハ通
 常五ミリメートルナリ固有ノ臭氣アリテ味ハ太々苦シ
 「カリサヤキナ」皮ハ「キニーネ」ヲ含ムト最モ多シ
 Cortex chinæ fusca.

(乙)褐色キナ皮又鼠色キナ皮

“ Grisus.
 “ porvianus fusca.
 “ Grisus.

二種ノ別アリ(ロニアニユ鼠色幾那)及(ロクサ褐色幾那)是ナリ

(イ)ロニアニユ鼠色幾那) Cortex chinæ huanuco seu cortex porvianus grisus. ハ卷回セル枝皮ニシテ脆
 シ其ノ直徑一乃至二センチメートル厚サハ稀ニ二ミリメートル以上ニ至ルモノアリ
 外面ハ灰白褐色或ハ帶白色ニシテ縦ニ卷テ管狀ヲナシ而シテ横ニ溝アリテ殆ント輪狀ヲナセル溝アリ
 此溝ハ王キナニ比スレハ淺キヲ常トシ且ツ全輪ヲナサス
 内面ハ淺肉桂色ニシテ屢ハ白點アリ 髓線ニ結晶ヲ含有ス
 横截面ノ外圍ノ近傍ニ黒キ華爾斯輪アリ内側ノ近傍ニハ頗ル長キ皮纖維アリ
 (ロ)ロクサ幾那) Cortex chinæ loxa. ハ枝皮ニシテ脆ク管狀ニ卷回シ管ノ直徑ハ一センチメートル以下
 ナリ

皮ノ厚サハ一乃至二ミリメートルナリ外面ハ暗褐色ニシテ處々ニ鼠色或ハ黒色ノ斑アリ其他縦横
 ノ溝アリ其距離頗ル遠ク處々ニ痲苔ヲ敷ク
 上等(ロクサキナ)ノ横折面ニハ華爾私輪アリ

(ロクサ)及(ロニアニユキナ)ノ臭ハ特異ニシテ味ハ苦ク稍收斂シ又少シク芳香ヲ有ス

(丙)赤色幾那皮 Cortex chinæ Ruber.

(赤色キナ皮)ハ扁平或ハ半管狀ハ稀ナルモノ 片ニシテ厚サ半乃至二センチメートルナリ
 此皮ハ外面ニ暗赤褐色ノ木殼ヲ被セ卵圓形ノ疣ヲ有シ縦皺アルモノ多シ
 木殼ノ下ニハ褐赤色ノ厚キ纖維狀皮アリ横折シテ之ニ觸ルレハ恰モ細刺ノ指頭ニ攢刺スルカ如キヲ覺ユ

横断面ヲ檢スレハ外側ニ皮纖維アリテ光線狀ニ集列ス内側ニ至レハ輪狀ニ列ス
 味ハ太々苦クシテ收斂ス

(銹色キナ)ト混同スヘカラス 斯皮ハ纖維多ク柑黃色ニシテ褐赤色ナラス

(第十)苦扁桃水 Aqua amygdalarum amararum.

苦扁桃水ハ透明若クハ稍濁濁セル液ニシテ(シヤン)水素酸^酸ノ臭氣アリ其十立方「センチメートル」ハ
 六立方「センチメートル」ノ定規液ヲ用ヒテ消失セサル濁濁ヲ生セサル可ラス
 定規液製法

(乾燥セル純硝酸々化銀五二四六「ガランム」ヲ加水ニ溶解シ稀薄シテ其全容ヲ正シク「リ」タル」
 トナスヘシ)

苦扁桃水十立方「センチメートル」ヲ硝子蓋ニ入レ十滴ノ腐蝕曹達滴ト^{異重一三}三ノモノ二滴ノ食鹽飽和液ヲ加
 へ 但其液濁濁シテ點滴法ノ極度ヲ認メ 不斷攪和シテ右ノ定規液ヲ「ビユレツ」ヨリ點滴シ復タ消失セ
 サル濁濁ヲ生スルニ至テ止ミ其點滴シタル液量ヲ測ルニ正ニ六立方「センチメートル」ナルヘシ若シ其
 量之ニ及ハサルトキハ稀薄ナルモノト知り之ニ過クルトキハ濃稠ニ過クルカ故ニ定法ニ照準シテ之ニ
 餾水ヲ加入スヘシ

(曹達滴汁四分一容ヲ注クノ後チモ尙ホ著シク苦扁桃油臭ヲ認ムヘシ)

苦扁桃水二容ヲ安母尼亞水一容ト混スルニ十分時ヲ經レハ僅カニ混濁シ又二十分時ヲ經レハ乳白色ト

ナラサル可ラス 青酸^酸ヲ含有スル水ニシテ揮

和製ノ杏仁水 Amygdalus persica sin. 及ヒ杏仁水 Armonica vulgaris sin. モ亦タ上ニ記スル真性ヲ具フレハ代用
 シテ可ナリ

(第十一)老利兒結爾斯水 Aqua Lanocerasi.

老利兒結爾斯水ハ其千分中(脱水シヤン)水素酸^酸〇八三九分ヲ含ムヘシ即チ其十立方「センチメートル」
 ニ定規液五立方「センチメートル」ヲ加フレハ復タ消失セサル沉淀ヲ生セサル可ラス
 (定規液製法)苦扁桃水検査ニ用ユルモノニ同シ

老利兒結爾斯十立方センチメートルヲ硝子蓋ニ盛リ其ノ液若シ乳汁様ナルトキハ(強酒精)少許ヲ加テ水様透明トナルニ至リ之ニ(腐蝕曹達)三ノモノ十滴ト食塩ノ飽和液二滴ヲ加ヘ右ノ(硝酸々化銀水)即チ定規液ヲ以テ點滴法ヲ施シ茲ニ生スル濁濁ヲ振盪スルモ復タ消滅セサルニ至ルニ定規液五立方センチメートルニ費スヘシ若シ茲ニ費ス所ノ容量之ニ及ハサルトキハ其老利兒結爾斯水ハ稀薄ニシテ又此容量ヲ超ユルモノハ強キニ過ク斯クノ如ク強キニ過クル者ハ水ヲ加ヘ稀釋シテ適度ニ至ルヘシ老利兒結爾斯水ハ透明若クハ稍濁濁セル液ニシテ著ク(シヤン水素酸)ノ臭氣ヲ有シ又タ(老利兒結爾斯水)ニ容ニ(アンモニア水)一容ヲ混シ十分時間放置スルニ蓄ク半透明トナリ二十分時ヲ經テ乳白色トナラサル可ラス揮發油ナク只シヤン水素酸ヲ含有スルノ微

日本ニ於テ李類ノ葉若クハ仁ヨリ製シタルモノモ上文ノ稟性ヲ具有スレハ老利兒水ニ代テ藥用ニ供スルヲ得ヘシ

(第十二)依的兒 Asher:

透明無色ノ強キ揮發液ニシテ爽快ノ臭ヲ放チ極メテ燃燒シ易シ水中ニハ溶ケ難シ

(亞爾箇保爾)ニハ隨意ノ比例ヲ以テ溶解ス酸性反應ヲ呈ス可ラス硫酸亞硫 酸亞硫劃度圓筒ニテ同容ノ水ト共ニ振盪スルニ其容量ノ減スルコト十分一乃至八分一ニ過ク可カラス即チ依的爾八立方センチメートルヲ水八立方センチメートルト混シ而シテ二液ノ容量ヲ檢スルニ水ハ九立方センチメートルニ過ルコト無ク依的爾ハ七立方センチメートルヨリ降ル可カラス亞爾箇保爾及ヒ水常溫ニ在テ全ク揮發セサル可カラス固形物ヲ溶解セザルノ微且ツ其ノ蒸散ニ當テ毫モ異臭ヲ放ツ可カラスフーセル油ヲ混セザルノ微異重ハ零七二四ヨリ昇ルコトナク又零七二四ヨリ下ルコトナカルヘシ即チ每百中九十一分乃至九十八分ノ(純エチールエーテル)ヲ含マサルヘカラス

善ク密封セル瓶内ニ入レ冷處ニ貯フヘシ此ノ局方用依的爾ノ他尙ホ化學上純粹ノ依的爾アリ此レ毫モ

水及ヒ亞爾箇保兒ヲ含ムコトナキ者ナリ之ヲ(純エーテル)ト稱ス

(第十三)クロノフォルム Chloroformum.

無色透明液ニシテ特異爽快ノ臭ヲ有シ一四九乃至一四九六ノ異重ヲ有ス異重降ルトキハ(亞爾箇保爾) (依的爾)若クハ(アルデヒド)ヲ混ス

水ニ溶解スルコト少ク其溶水ハ酸性ニ反應ス可カラス游離セルコロイアル水素 酸亞硫ヲ含マサルノ微 脫色ス可ラス游離コロイアル水素 酸亞硫ヲ含マサルノ微

(最強酒精)異重八乃至九(依的爾)ニ容易ク溶解スヘシ

硝子皿ニテ蒸發スレハ全ク揮散シ固形物ヲ遺スコトナク又其蒸發ノ間ニ異臭ヲ放ツ可ラス固形物ヲ含マサルノ微 二容ノ水ト立カト一容ノコロ、ホルム五センチメートル立カト共ニ振盪セルニ 沉淀セルコロ、ホルムハ容量ノ減少ヲ現出ス可ラス亞爾箇保爾依的兒アルデヒドエチ

右ノ上清ニ硝酸ノ化銀ヲ加フルニ毫モ白濁ヲ生ス可ラスコロイアル水素酸游離コロイアル水素酸ヲ含マサルノ微 同容ハ(強硫酸)ト共ニ振盪スルニ其混合液ハ毫モ茶褐色ヲ呈ス可ラス他ノ有機性コロイアル化合物ヲ含マサルノ微

(孕水曹達)ノ(亞爾箇保爾飽和溶液)同容ト混スルニ毫モ温ヲ發スル無ク又互私發生ヲ爲ス可ラスエチンコロイアル水素酸ヲ含マサルノ微 此物ハ亞爾箇保爾性孕水曹達ニ逢フテコロイアルアセチール瓦私ヲ發生シコロ、ホルムハ然ルコトナシ

親密固封セル瓶内ニ入レ暗所ニ貯フヘシ

(第十四)安母尼亞水 確砂精 Signor ammoniac.

無色透明強キ亞爾加里性ノ液ニシテ能ク揮發シ劇シキ竄透臭ヲ有ス

異重ハ零・九五九ヲ上ルコトナク又零・九五二ヲ下ル可ラス(稀硫酸)ヲ注キ殆ント飽和スルニ至ルモ一ト様ノ臭氣(即チ焦臭)ヲ發スルコトナク且ツ帶褐色トナル可ラス焦性油ヲ含マサルノ微 透明ナル新製石灰水ノ同容ヲ加フルニ極メテ僅微ノ濁濁アルモ多量ノ沉澱ヲ生ス可ラス炭酸ヲ含マサルノ微 凡ソ五十立方センチメートルノ(流動アンモニア)ヲ取り硝酸ヲ加入シテ中和ノ度ヲ越ユルニ至リ之ヲ

陶皿ニ移シ蒸發シ殆ント乾燥スルニ至リ其殘留物ニ僅微ノ水ヲ加ヘテ溶解シ二分シテ其一分ニ(硝酸酸化銀)ヲ加フルモ沉澱ヲ生スヘカラス「コロラル」シヤン他ノ一分ヲ取り(コロル化バリウム)ヲ加フルニ濁濁ス可ラス硫酸ナ(稀醋酸)ヲ加テ殆ント中和スルニ至リ之ニ(舊酸安母尼亞)ヲ加フルモ濁濁ス可ラス石灰鹽ヲ合稀醋酸ヲ以テ飽和シ(硫酸水素)ヲ加フルモ濁濁ス可ラス重金屬ヲ合藥用流動安母尼亞ハ其百分毎ニ十乃至十二分ノ安母尼亞氣ヲ含ムヘシ即チ安母尼亞水五、一「カラム」ヲ秤リ定規酸ノ溶液ヲ以テ點滴シ中和スレハ二十乃至三十六立方「センチメートル」ノ酸ヲ費サハル可ラス善ク密閉セル硝子栓ノ瓶ニ貯フヘシ

(第十五) 一半炭酸アンモニア Ammonium sesquicarbonium.

此鹽ハ白色結晶性ノ堅塊或ハ片ニシテ其表面多クハ白色粉末狀ノ薄層重炭酸アヲ被ムルモノナリ強クアンモニアノ臭氣ヲ有スレトモ焦臭ヲ放ツ可ラス焦性ノ物質此鹽ヲ白金葉或ハ磁製ノ皿ニ上セ炒ルニ微熱ニテモ既ニ全ク揮發ス可シ火ニ堪ユル物此鹽ハ四倍或ハ五倍ノ蒸餾水中ニ溶解ス可シ重炭酸アンモニア尙ホ多量ノ水ヲ要セルモノナリ此鹽ノ稀薄溶液ニ醋酸ヲ加ヘテ飽和セシムルモノハ(コロル化バリウム)ヲ加フルモ濁濁ヲ生スヘカラス硫酸鹽類ヲ合又此酸性溶液ニ(硫化水素)ヲ通スルモ濁濁ス可ラス重金屬類ヲ合又此溶液ニ(硝酸々化銀)ヲ加フルモ濁濁ス可ラスコロル化合物但シ僅微ノ濁濁ハ之レヲ生スルモ可ナリ

此鹽ハ塚子或ハ鐵葉製ノ罐内ニ密封シ貯フ可シ

(第十六) コロラルヒドレート Chloralum hydratum.

「コロラルヒドレート」ハ乾キタル無色透明ノ結晶ニシテ峻烈ナル芳香ヲ有ス濕潤ナルヘカラス帶綠黃色ヲ有スヘカラス亦タ常溫ニ在リテ自ツカラ刺戟性ノ白瀉ヲ發生スヘカラス

小皿ニ容レ煖ムレハ先ツ攝氏ノ五十六度乃至五十八度ノ温ニテ熔融シ次テ全ク揮散セサルヘカラス揮散ナラサル耐火物ヲ合マサルノ微

容易ク少量ノ冷水中ニ溶解シ盡スヘシ其際ニ油狀ノ物質ヲ分離スヘカラス分解シタルコロ水溶液ハ中和ナラサルヘカラス但シ極微ノ酸性反應ハ害ナシ分解シタルコロ

(最强酒精) 異重零八二八ニハ溶解セサルヘカラス無機物或ハ他ノ酒精ニ溶(濃稠腐蝕曹達油)ヲ加ヘ振盪スルハ先ツ乳汁様ノ液ヲ得ル此液ハ少時間靜置スル後全ク透明トナリ二層ニ分ル其ノ一ハ(コロロホルム)ニシテ一ハ(蟻酸曹達)ヲ含ム實性

(コロラルヒドレート) 少許ニ(硝酸) 異重一、一ヲ加ヘ煖テ煮沸スルニ至ルニ毫モ褐黃色ノ蒸氣ヲ放ツヘカラスコロラルアルコホララソドヲ合マサルノ微

(コロラルヒドレート) 少許ニ(強硫酸)中ニ投スルトキハ其ノ結晶徐々ニ溶解セサルヘカラス次テ此ノ混合物物ヲ煖メテ煮沸スルニ至ルモ褐色ヲ呈スヘカラスコロラルアルコホラ水溶液ニ(稀硝酸)ヲ加ヘテ僅ニ酸性トナシタル後チ(硝酸酸化銀)ノ稀薄溶液ヲ加フルモ沉澱スヘカラス但シ極微ノ濁濁ハ害ナシ游離コロル或ハコロル水性溶液ニ(稀硫酸)ヲ加ヘテ酸性トナシ之レニ(過マンガン酸加里溶液)一兩滴ヲ加フルニ一時チ經ルノ後チ尙ホ其ノ紫色ヲ脱スヘカラス分解シタルコロ

(コロラルヒドレート)ハ密閉シタル瓶ニ納メ冷暗ノ處ニ貯フヘシ

十分一立方「センチメートル」ハ度目ヲ劃シタル硝子圓柱ニ(コロラルヒドレート)二十五グラムヲ投シ之ニ異重一・二三ノ(腐蝕加里油)五十立方「センチメートル」ヲ注キ四十度乃至五十度ノ温ニテ時々振盪浸漬スルコト半時ノ後更ニ二乃至四時間靜置シ圓柱下方ノ「コロ、ホルム」ヲ充チタル部ノ度目ヲ檢スルニ其ノ度十一・五乃至十一・八ナラサルヘカラス其容量少キハコロラルアル

高温ニ逢ヒ濕氣ヲ引キ或ハ貯藏久シキニ過クルカ爲メニ酸性トナリタル「コロラルヒドレート」モ(重炭酸曹達)ト共ニ大ナル「レドルト」トニ容レ再蒸スルトキハ復タ用フルニ堪ユヘシ

(第十七) ブロームカリウム 臭素加里 Kalium bromatum.

白色骰子形ノ結晶ニシテ容易ク水ニ溶解ス
溶液ハ僅ノ亞爾加里性ナルコト有ルモ其著ルシキヲ許サス多ク炭酸加里ヲ
稀溶液ニ(コロール化バリウム)ヲ注クニ毫モ沉淀ヲ生スヘカラス僅微ノ淡白ナル溷濁ヲ生スルコト有
ヘシ多量ノ硫酸鹽ヲ
含マサルノ微

(硝酸々化銀)ヲ注ケハ甚シク帶黃白濁ヲ生セサルヘカラス斯ノ沉淀ハ過量ノ(安波尼亞)ニ溶ケ難シ
濃稠溶液ニ極メテ稀釋シタル(硫酸)ヲ加フルモ直チニ黃色若クハ褐色ヲ呈スヘカラス且ツ其液ヲ煮沸
スルニ於テモ亦然リトス 滯羅酸加里硝酸鹽
ヲ含マサルノ微

其水溶液ヘ(次硝酸)ヲ含有スル(硫酸)ト(硫化炭素)或ハ(コロロホルム)ヲ加テ振盪スル後チ毫モ(硫化炭
素)或ハ(コロロホルム)ニ紫赤色ヲ與ヘス之ヲ與フルモ極メテ僅微ヲラサルヘカラス 沃度加留膜ヲ多量
斯ノ鹽ヲ乾ケル者ニカラム許ニ(重コロロム酸加里)一カラム許ヲ加ヘテ研和シ之ヲ其容量凡ソ百立方「セ
ンチメートル」ナル小列篤兒篤ニ盛リ(強硫酸)四カラムヲ注キテ劇烈ノ反應止ムノ後煖メテ煮沸スルニ至
リ其際冷却セル受器内ニハ赤褐色ノ液 即チ滯 ヲ得サルヘカラス斯液ヲ小皿ニ移シ徐々ニ過量ノ(稀薄
安母尼亞水)ヲ注グハ終ニ全液殆ント全ク無色トナラサルヘカラス又タ強キ黃色ヲ呈スヘカラス 黃色ヲ
ハコロール
ノ微ナリ

百度ノ熱ニテ乾燥セル(ブロームカリウム)「一カラム」ヲ取り水二百「カラム」ニ溶シ之レニ(コロロム酸加
里液)一二滴ヲ加ヘ十分一定規銀液「一六九七カラム」ノ硝酸銀ヲ 一滴加シ(コロロム酸銀)ノ赤色ヲ現ス
ルニ至ルニハ八十四乃至八十四「半立方」センチメートル「ヲ費サ、ルヘカラス 若シ銀液ヲ費スコト多量ヲ
多キナリ

(第十八) 枸橼酸鐵 キニーネ Quinnum ferrosulfurum.

透明赤褐色ノ鱗狀屑ニシテ黃金色ノ光輝アリ味ハ苦シ水ニ溶解スルコト徐々ナリト雖モ全ク溶ケサル
可ラス此水溶液ハ(コロール化バリウム)ニ由テ溷濁ス可ラス 硫酸鹽ヲ
含マサルノ微

此水溶液ニ(流動安波尼亞)ヲ混スレハ白濁ヲ生ス此沉淀ハ容易ク(依的爾)ニ溶解スヘシ「シマンコニーネ」ヲ
白金葉上ニ熱スレハ初メ化炭シテ燃ヘ終ニハ(酸化鐵)ヲ含有スル灰ヲ殘留ス
此灰ヲ(コロール水素酸)ニ溶解シ過多ノ(流動安波尼亞)ヲ注ケハ沉淀ヲ生ス之ヲ濾過スレハ其液ハ無色
ニシテ(硫化安波尼亞)由母ニ逢フモ溷濁スヘカラス 亞鉛銅ヲ含
マサルノ微
此安波尼亞性無色ノ濾液ニ白金葉上ニテ蒸發スレハ殘留物ヲ遺ス可カラス 亞爾加里類
ナキノ微
水溶液ハ(赤色血鹽)ニ由テ毫モ青濁ヲ生ス可ラス 亞酸化鐵鹽ヲ
含マサルノ微
此鹽ノ百分ハ二十分ノ(枸橼酸キニーネ)ヲ含マサル可ラス

(第十九) 硝酸酸化銀 Argentinum nitricum.
結晶硝酸酸化銀 Argentinum nitricum.
Crystallinum.

(硝酸酸化銀)ハ無色透明ノ四角或ハ六角板狀ノ結晶ニシテ空氣中ニ濕潤セス水ニ溶解スルコト太々容
易ク(最強酒精)乃至零八三 及ヒ(エーテル)ニモ亦溶解ス
此結晶ハ(流動安母尼亞)ニ溶解スルコト充分ニシテ且ツ其溶液ハ無色ナラサルヘカラス 青色ハ銅白亜ハ
含
ムノ
微

結晶中毫モ游離酸ヲ含ムヘカラス又硝酸臭ヲ放ツヘカラス
水溶液ニ(コロール水素酸)ヲ加フルコト稍過量ニ至リテ全ク銀ヲ沉澱セル後濾過シタル濾液ハ蒸發ノ
後固形物ヲ殘スヘカラス假令之レヲ殘スモ僅微ノ痕跡ノミナルヘシ 硝酸加里及ヒ他ノ鹽
類ヲ含マサルノ微
此鹽ハ黑色或ハ黃色ノ瓶子ニ藏メ密封シ光線ヲ絶チテ貯フヘシ

熔製硝酸酸化銀 Argentinum nitricum fusum.

白色若クハ帶白灰色ノ小杆ニシテ濕潤ナル可ラス
容易ク水ニ溶解シ著シキ灰白色ノ溷滓ヲ留ム可ラス 還元銀ヲ
含
ムノ
微
(亞爾爾保爾) 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三 乃至零八三
ニ全ク溶解セサル可ラス
水溶液ハ過剩ノ(安母尼亞)ヲ加ヘテ青色トナルヲ許サス 銅鹽ヲ含
ムノ
微

水溶液ニコロール水素酸ヲ注キテ全クコロール化銀ヲ沉澱シ濾過シテ其液ヲ硝子皿ニ入レ蒸發スルニ殘留物ヲ見ル可ラス加里鹽及ヒ他ノ金屬鹽ヲ含マサルノ徵

(第二十)鹽基性硝酸蒼鉛 *Bismuthum subnitricum*

此鹽ハ美白無臭ノ結晶粉ニシテ水ヲ以テ滋セハ青色試験紙ニ弱キ酸性反應ヲ呈ス等分ノ水ヲ以テ稀釋セル(硝酸)或ハコロール水素酸ニハ沸騰セスシテ全ク溶解セサルヘカラス沸騰スルハ炭酸酸化蒼鉛炭酸石灰溶解セサル者ハ硫酸石灰

(硝酸溶液)ニ四倍量ノ水ヲ加ヘ稀釋シテ濾過シタル液ハ(硝酸々化銀)ニ逢テ毫モ混濁ヲ生セサルカ假令之レヲ生スルモ極テ僅微ナラサルヘカラス鹽基性第二コロール若鉛コロール水素酸或ハコロール化金屬ヲ含マサルノ徵

右ノ硝酸溶液ニコロール化バリウムヲ加フルニ毫モ混濁スヘカラス硫酸或ハ硫酸鹽ヲ含マサルノ徵

稀釋シタル(硝酸溶液)ヲ濾過シ之レニ(稀硫酸)ヲ加フルニ毫モ混濁或ハ沉澱ヲ生スヘカラス鉛或ハ多量ノ石炭鹽ヲ含マサルノ徵

(硝酸溶液)少許ヲ(モレフデー)ン酸安母尼亞ト和シ徐々ニ煖ムルニ毫モ黃泥ヲ生スヘカラス磷酸石灰ナキノ徵

(硝酸溶液)ニ水ヲ加テ稀釋シ濾過シタル液ヲ蒸發シテ其ノ容ヲ減シ之レニ過剩ノ(流動安母尼亞)ヲ加フルニ其ノ液毫モ青色ヲ呈スヘカラス銅ヲ含マサルノ徵

稀釋シタル(硝酸溶液)ニ(硫化水素)ヲ加テ全ク(蒼鉛)ヲ沉澱シタル透明濾液ニ(炭酸曹達)ヲ加ヘ煖ムルモ混濁スヘカラス鐵、亞鉛、石灰、苦土ヲ含マサルノ徵

鹽基性硝酸酸化蒼鉛)少許ヲ(腐蝕加里適)ト共ニ徐々ニ煖ムルモ安母尼亞臭ヲ覺フヘカラス安母尼亞ヲタル硝酸酸化蒼鉛ヲ含マサルノ徵

此鹽大約二グラムヲ(濃稠硫酸)大約八グラムヲ加ヘ蒸發シテ殆ント乾燥スルニ至リ其殘遺ヲ(強コロール水素酸)大約八グラムニ溶解シ此液大約三乃至四立方センチメートルヲ長キ試験管中ノ(純亞鉛)一片ニ注瀉シ而シテ(硝酸銀水)一滴ヲ以テ濕シタル紙片ニテ管口ヲ緩カニ塞キ日光ヲ絶チテ十乃至十五分時間靜置スルニ紙片暗黒褐色ニ變スヘカラス砒石ヲ含マサルノ徵

此鹽ハ密瓶ニ貯フヘシ

(第二十一)第一コロール化水銀甘汞 *Hydrargyrum chloratum nite.*

藥用ノ者ハ昇華シタル後水ニテ洗ヒタルモノナリ濕法ニ由リ沉澱シテ製シタル者ニ非ラス

帶黃白色ノ細末ニシテ甚々重シ灰白色ナレハ遊離セル(水銀)若クハ(亞酸化水銀)ニシテ純白ナレハ濕法製ノ甘汞ナリ

乾燥セル硝子管内ニ熱スレハ熔融スルコトナクシテ直チニ昇華シ殘留物ヲ見ルコトナシ且ツ其際酸性若クハ亞爾加里性ノ蒸氣ヲ發ス可ラス鹽基性硝酸亞酸化水銀天生硫酸ナリ

(腐蝕曹達)ヲ加ヘテ弱ク温レハ黑色トナリ安謨尼亞臭ヲ發ス可ラス第二コロール、アミット水銀ヲ含マサルノ徵

一分ノ甘汞ヲ十分ノ冷水ト共ニ振盪シ濾過スレハ透明無色ノ濾液ヲ得之レニ(硫化水素)ヲ加フルモ發色シ又ハ沉澱ヲ生ス可ラス昇華及ヒ他ノ可溶性重金屬鹽ナキノ徵

右ノ濾液即チ冷水ヲ以テ振盪シテ蒸發スルニ毫モ固形物ヲ遺スヘカラス水ニ溶解スヘキ物質及ヒ甘汞ハ善ク密閉セル瓶内ニ入レ暗所ニ貯フヘシ

内國及ヒ支那製ノ輕粉水銀粉、ハラ、ハラヤ、伊勢白粉、粉霜伊勢白粉ノ等ハ性質第一コロール汞ニ類似セルモノト雖モ其製造法一定セス且ツ硫酸石灰或ハ雲母末等ヲ以テ厩造スルモノ抄カラサルカ故其性質前文ノ試驗ニ符合スルモノハ皆第一コロール化汞ノ名箋ヲ貼スヘシ

(第二十二)第二コロール化水銀昇華汞 *Hydrargyrum bichloratum corrosivum.*

白色半透明ノ結晶片ニシテ甚々重シ時トシテハ白色結晶狀ノ粉末ナルコトアリ之ヲ熱スレバ初メ熔流シ終ニ全ク揮散セサル可ラス火ニ耐ユル混合物キアス天

水ニハ全ク溶解セサル可ラス温スレハ其溶解ヲ促進ス甘汞炭酸化鉛天生硫酸

最強酒精異重等八二ニハ全ク溶解スヘシ甘汞等ヲ含

(依的爾)凡ニ溶解スヘシ甘汞及依的爾ニ溶

此水溶液ハ石灰水ニ由テ橙黃色ノ沉澱ヲ生スヘシ實性

内國及ヒ支那製ノ昇汞、青乳、生乳、ハ屢砒石ヲ含ムコトアリ亦其試驗ヲ遂ケ上法ニ合フトキハ第二

藥品試驗ニ付注意方

コロール化素ノ名箋ヲ貼スヘシ

内務省衛生局ヨリ東京横濱長崎司藥場へ達 十一年四月十五日

藥品ノ試験ハ衛生事業中一大要務ニシテ醫學ト商業トノ二途ニ跨リ其關涉スル所ノ利害極メテ廣大ナルニ付試験ノ精細ヲ要スルハ勿論醫術ノ進運ニ從ヒ西洋藥品ノ需用逐日緊切ニ迫リ而シテ本邦化學製藥學ノ進歩未至其度奸商ノ詐術ヲ逞フセントスルモ此時ヲ以テ千載ノ一時トナシ或ハ幽微ノ質造法ヲ用ヒ或ハ利ヲ啗ハシメテ曲ヲ覆フ等奸詐百方以テ暴利ヲ占有スルノ秋ナルカ故ニ藥品試験ノ世ニ裨益アルハ亦今日ヲ以テ最緊要ノ時ナリトス依テ各自試験ノ際必ス先ツ一定普通ノ方法ニ據リテ精細ノ試験ヲ遂ケ萬一教師ノ處分其試藥師ノ意見ニ符合セサルコトアレハ更ニ同僚ニ謀リ彼此ノ方法ヲ用ヒテ反覆試験シ之ヲ教師ニ討議スヘシ而シテ尙且雙方ノ意見ヲ殊ニシ到底心服セサルコトアラハ本局ニ開申シテ禁許ノ決判ヲ取候様可然爲心得此段及内達候也

海軍機關キニテノ無檢正ニテ賣買セザル様取置セシム

内務省衛生局ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達 十一年五月二十八日

輓近輸入スル枸櫞鐵キニネハキニネ分ヲ含有スルコト甚少量ニシテ試験法ニ適シ難キモノ頗ル多ク隨テ各司藥場へ検査願出ツルモ連々藥用ヲ禁スルカ故ニ方今ニ至リテハ検査ヲ請ハス又其品ノ良否如何ヲ顧ミス妄リニ販賣スルノ弊有之之趣ニ於テハ罰則モ有之品々ニ付賣買之際特ニ注意候様藥舖へ懇篤説諭可致此段相達候也

司藥場則内外藥品検査表

十三年月日衛生局所定ヲ參照スヘシ

内務省衛生局ヨリ各司藥場へ達 十一年十二月二十五日

罰則内外藥品検査表ノ儀來ル明治十二年一月分ヨリ別紙ノ通調製翌月中可差出此旨相達候事

但外國人出願物品及ヒ飲水等雜品試験表ハ從前ノ通タルヘシ

明治何年何月罰則内藥品検査表

何司藥場

藥名	内國製		外國製		合計
	許/瓦	禁/瓦	許/瓦	禁/瓦	
第一コロール素	一一三	一一	四五六	一一三	
炭酸アンモニア					
、					
、					
、					
、					
合計					

明治何年何月罰則外藥品検査表

藥名	内國製		外國製		合計
	許/瓦	禁/瓦	許/瓦	禁/瓦	
重炭酸曹達					
甘硝石精					
、					
、					
、					
合計					

内務省ヨリ大阪司藥場へ達 十二年三月十一日 (官職門官制)

去ル明治十年中其場試験條例相達置候處今般別冊之通改定候條此旨相達候事

(別冊)

大阪司藥場試験條例ヲ改定ス

十三年七月十九日内務省達ヲ以テ各司藥場試験條例ヲ改定ス

大阪司藥場試驗條例

- 第一條 藥物試驗ハ醫師藥舖ノ蒙昧ヲ啓發シ奸商ノ弊害ヲ防遏シ質粗ノ品類ヲ擯斥シテ醫藥ノ功驗ヲ確實著明ナラシムル要件ナルカ故ニ施行ノ際最モ戒慎精密ヲ極メ決シテ疎漏ナキヲ要スヘシ
- 第二條 藥物試驗ハ總テ九等試藥師以上ニ分任シ場長ハ試驗スヘキ藥物ヲ分配シテ分析セシメ終始之ヲ監督シ其成績ヲ詳悉シテ禁許ノ判決ヲ爲スヘシ而シテ場長モ執務ノ繁簡ヲ計リ自ラ其分析ノ事ヲ執ルハ勿論ナリトス又タ九等試藥師以上ハ十等試藥師以下ノモノヲ助手トナスヲ得ヘシ
- 第三條 藥物試驗之方法ハ未タ日本藥局方確定セサルヲ以テ舶來藥品ハ各其本國ノ局方ニヨリテ之カ品位ヲ定メ許可スヘシ又タ此他ノ藥品ニシテ其出所製法ヲ詳カニセス或ハ其出所等分明ナルモ必スシモ其本國ノ法ニ從テハ本邦ノ製藥家及ヒ醫療上ニ不便ヲ醸スヘシト認ムルモノアルトキハ監時場長其意見ヲ具上シ衛生局長ノ判決ヲ請テ然ル後試驗法ヲ一定スヘシ決シテ各自ノ意見ヲ以テ區々ノ試驗ヲ爲スヘカラス
- 第四條 試驗濟ノ藥物願人ヘ下渡シタルモノハ每一週日分每品其許禁シタル譯何氏試驗法及并ニ番號月日藥名商標瓶數及ヒ願人ノ住所氏名引取先キ等詳細記載シテ照考ノ爲メ各司藥場互ニ通知スヘシ
- 第五條 藥物試驗ヲ願出ルモノアルトキハ事務掛ニ於テ藥名員數并ニ願人ノ住所氏名引取先キ等ヲ願書ト照查シ不都合ナキヲ認メテ預リ證書ヲ渡スヘシ而シテ詳細受付簿ニ登錄シ且ツ番號ヲ記シ然ル上場長ニ差出スヘシ
- 第六條 場長ハ其藥名商標員數番號月日ヲ帳簿ニ登記シ九等試藥師以上ヲ撰ンテ主任トナシ之ヲ試驗セシムヘシ
- 第七條 試藥師ハ場長ヨリ命セラレタル藥物ヲ詳細検査シ試驗濟ノ上場長面前ニ於テ其成績ヲ明陳シテ許禁ノ判決ヲ承認スヘシ
- 第八條 但場長ノ意見ニヨリ更ニ他ノ試藥師ニ命シ再三試驗セシムルコトアルヘシ
- 第九條 場長ハ前條ニ掲クル試驗ノ成績ヲ試藥師ヨリ具陳スルトキハ其成分反應ヲ詳細考證シ自己ノ

試驗簿ニ許禁ノ次第ヲ記シテ之ヲ該主任ノ試藥師ニ示スヘシ

第九條 試藥師ハ場長ノ示シタル許禁判決ノ次第ヲ場長ノ簿冊ト毫モ違ハサル様自己ノ簿冊ニ登記シ該藥品ト共ニ事務掛ニ送附スヘシ

但禁止ノ印ヲ貼スル藥品ハ告示箋ニ和文ヲ記載シ自己ノ氏名ニ捺印シテ場長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ事務掛ニ送附スヘシ

第十條 事務掛ハ右ノ藥物及ヒ告示箋ヲ受取り番號ヲ照查シ許禁并ニ月日等ヲ受付簿ニ登記シ印紙貼附ノ手續ヲ爲シテ之ヲ願人ニ下渡スヘシ
右之通相定候事

內務省ヨリ長崎司藥場ヘ達 十二年四月一日(官職門官制)
其場試驗條例今般册冊ノ通改定候條此旨相達候事別冊ハ大阪司藥場試驗條例ト同文ニ付寄ス

內務省衛生局報告 十二年四月七日
從來司藥場ニ於テ貼用スル所ノ印紙ハ故意換貼ノ弊ナキヲ保シ難キヲ以テ今般新ニ印刷法ヲ改メタリ若シ之ニ水或ハ湯氣等ヲ浸シ濕潤セシムルトキハ忽チ其色質ヲ剝脫シテ文字不分明トナルモノナリ故ニ賣買人取扱ノ際深ク注意ヲ加フヘシ因テ此旨報告ス
但當分從前ノ印紙ヲ取交セ貼用スヘシ尤モ改製ノ分ハ帶狀印紙ヲ用ルコトナシ以テ鑑別スヘシ

內務省衛生局ヨリ東京大阪橫濱長崎司藥場ヘ達 十二年四月十二日
許禁醫藥用大中形印紙ノ儀相廢シ今般送致候小形印紙而已自今印刷致候條大瓶等ヘハ適宜二箇所ニ貼附可致且該印紙貼附ノ際其色質ヲ剝脫セシメサル様注意可有之此旨相達候事

長崎司藥場試驗條例
改正ス
十二年七月十九日內務省
達シ以テ各司藥場試驗條
例ヲ改正ス

司藥場貼用印紙印刷法
改メシニ付取扱ノ際
注意セシム

許禁醫藥用大中形印紙
ヲ廢シ小形印紙ノミヲ
貼用セシム

許禁醫藥用大中形印紙
ノ儀相廢シ今般送致候
小形印紙而已自今印刷
致候條大瓶等ヘハ適宜
二箇所ニ貼附可致且該
印紙貼附ノ際其色質ヲ
剝脫セシメサル様注意
可有之此旨相達候事

藥劑取扱規則
十九年六月内務省令第十
號ヲ以テ巡査局方ニ定ム

布告第十三号 一月十七日右大臣岩倉具親署
藥劑取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同
日限相廢條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類注意トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ
直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因
テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ
第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ
危フスルカ故ニ其粗製品收ノ際ニ他物ヲ混シタルニアラズ全ク化學製造上或ハ採
スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無償ニテ其試驗ヲ受クルコト
ヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明
記シ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ
品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラザルハ決シテ販賣或ハ
授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他
不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ
毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

十七年九月布告第二十九
號ヲ以テ「無毒」ニテ其ノ
五字ヲ削除ス
十七年十月内務省告示甲
第二十七號ヲ以テ検査手
續料ヲ定ム

十三年七月布告第三十七
號刑罰法第二百五十四條及
第二百五十五條ヲ參照ス
ヘシ刑罰法門ノ目ニ載
ス
十四年十二月布告第七十
二號ヲ以テ罰例所斷方ヲ
定ム刑罰法門則ノ目ニ載
スモ若クハヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本
文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密封封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戾シ又ハ贗品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量ヲ増スモノ若
クハ他ノ物品ヲ本品ニ擬シ或ハ名號ヲ變換スルモノ、
贗ヲ敗品總テ酸敗、風化、或ハ潮解シ若クハ黴爛ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リトシ販賣スルモノハ其贗敗品ヲ
没入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三
條第五條ニ背戾スルモノハ一圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ一日以上二十五日以下ノ懲役ヲ科シ
又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ二倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多
限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

第一類 注意表

- 印度大麻葉及其製劑
- 麥奴及其製劑
- 乳酸鐵
- 吐根
- 礮砂精(アンモニア水)
- カラハル豆及其製劑
- ヨジウム
- 沃土鐵舍利別
- 第一コロール汞(甘汞)
- 炭酸アンモニア(礮砂華)
- 蔓陀羅華及其製劑
- 芫菁(斑猫)

- 苘蓉葉并根及其製劑
- 番木鱉子及其製劑
- ヘブシチ
- 吐酒石
- ヂキタリス葉及其製劑
- 肝油
- 沃土加里
- 第一沃土汞(黃色沃汞)
- 第二コロール汞(昇汞)
- 老利爾結兒私水并苦扁桃水
- 蒞刺巴脂并球根及其製劑
- コロ、フォルム

コロラルヒドレート
 格魯黃篤實及其製劑
 阿片製劑
 醋酸アンモニア水(ミンデルリ精)
 サリシール酸及鹽類
 規尼涅鹽類
 硝酸銀
 萘酸セリウム
 エーテル(アール)
 ヒヨス葉及其製劑
 莫爾比涅鹽類
 第二類毒表
 燐
 クラール(矢毒)
 揮發苦扁桃油
 ニコチネ。ガキタリネ。ナルセーネ。ヴェラトリネ。プルシネ。ユニーネ。ユデーネ。アトロヒネ。アコニチ
 ネ。エメナネ。ヒヨシアミネ。モルヒネ。ストリキニーネ等
 猛劇汞劑
 白降汞。第一沃汞。第二沃汞。昇汞。赤降汞。硝酸亞酸化汞。青酸汞。生乳
 青酸及其製劑
 第三類毒表
 印度大麻葉及其製劑
 番木鱉及其製劑
 格魯失屈謨實及其製劑
 アトロヒ子鹽類
 サントニー子
 薩爾撒根
 機那皮
 綿馬及其製劑
 失鳩答草及其製劑
 臭素加里(臭素別篤亞私)
 鹽基性硝酸蒼鉛
 蓖麻子油
 水素還元鐵
 カンタリザーネ
 亞砒酸(異名 白砒石、礬石)其製劑及砒抱合物(雞冠、雄黃)
 有毒性アルカロイド并其鹽類
 萘若葉并根及其製劑
 巴豆及巴豆油

麥叔及其製劑
 ヘルレボル根及其製劑
 吐酒石其他安質莫尼製劑
 藤黃
 硫酸
 苛性加里(腐蝕加里)
 芥子油及芥子精
 ヨザウム及其製劑
 ヨザウム鐵
 雙鸚菊球根(烏頭)及其製劑
 ヴエラトリ根
 葯刺巴脂并球根及其製劑
 芫菁(毒貓)及其製劑
 プロミウム(臭素)
 コルシクム實并根及其製劑
 コロハ、フオルム(迷朦水)
 コロラルヒドレート
 コローム酸加里及重コローム酸加里
 亞鉛華其他亞鉛製劑
 醋酸鉛(鉛糖)其他鉛製劑
 次醋酸銅其他銅製劑(酸化銅)
 硝酸銀
 ボドヒリオン
 吐根及其製劑
 毒蒿苗及其製劑
 ガキタリス葉及其製劑
 カラバル豆及其製劑
 苛性曹達(腐蝕曹達)
 甘汞及輕粉、汞灰散、藍丸
 沃土加里
 ヨードホルミウム
 老利爾結兒私水并苦扁桃水
 過酸滿倫酸加里及曹達
 蔓陀羅華葉及其製劑
 ケレチソート
 コローム酸
 コロシント實及其製劑
 コロトニコロラルヒドレート
 コロダイン
 阿片及其製劑
 サピナ葉及其製劑
 サントニーネ
 硝酸硝石精
 失鳩答葉及其製劑

臭素加里
鹽化金ナトリウム
鹽基性硝酸蒼鉛其他蒼鉛製劑
ヒヨス葉及其製劑
瑞香皮及其製劑

鹽酸(海鹽精)
鹽酸重土其他重土製劑
エウホルピウム及其製劑
石炭酸
スカンモノー脂

内務省何十二年六月十九日
 去明治七年十二月キヨ一ノ「ヨ」ドカリノ二藥取締罰則ヲ三府ニ被爲布次ヲ九年三月更ニ二十種ヲ追加ニ相成候右取締方ハ全國一般御施行可相成儀ニ候ヘ共當時ノ情勢ヲ御斟酌先ツ三府ニ御施行ニ相成漸次取締ニ相立候處當今各同藥場検査禁許ノ合數ヲ比例スルニ醫藥用ニ供シ難キモノノ百分中十分内ニ居ル此際不買品ハ追罰則無之地方ニ散布致候者自然ノ勢ニテ從前ニ比スレハ一層ノ弊害ヲ被リ候景况ニ有之罰則無之ヲハ取締ニ難相立候故三府同様に御施行ニ相成度段申出候地方モ連連有之今日及候テハ各地方一般御布令無之ヲハ不相當時機ニ至リ且横濱長崎兩港ヘモ司藥場設置候上ハ各地藥品試驗別ニモ差支有之問敷候條旁以テ一般ニ御施行相成度尤一昨十年二月第二十號ヲ以テ公布相成候毒藥取締規則ニ於テハ索ヨリ取締上ノ性質ハ相異リ候ヘ共齊シク藥品ノ儀ニシテ二則ヲ設置相成候別紙ノ通り一規則ニ改定公布相成候條致シ度依テ右御布告案并司注省ヘ御達案相添至急仰裁可候也
 法制局職案十三年八月二十七日
 別紙内務省何藥品取締規則御施行ノ儀ハ事實不得止儀ニ付上請ノ通御裁可相成可然因テ規則ヲ修正シ諸案調査仰高裁候也
 元老院ヘ達十二年十月一日
 藥品取締規則布告案
 右其院議定ニ被附候事
 元老院上申十二年十一月十日
 去ル十月一日下附有之候藥品取締規則布告案本月四日本院議定書勅裁ヲ仰キ候爲メ御上奏有之度候也去ル十月一日本院ノ議定ニ附セラレシ處ノ藥品取締規則布告案本月四日會議ニ於テ修正ヲ加フヘキニ決ス仍テ修正ノ條項及ヒ院議ノ摘要ヲ朱書シテ謹ク之ヲ上奏ス
 藥品取締規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥取締規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

施行日限ノ儀ハ布告發行ノ日ヨリ凡三十日間ノ猶豫アルヘシ

藥品取締規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類(注意)トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類(毒)トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラザルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類(毒)トシ其類目別表ノ如シ
 但新ニ發見及ヒ舶來シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ
 (院議) 本條藥品ヲ區別シテ三類ト爲シ其第二類第三類ニハ分注ヲ以テ毒藥劇藥ノ名稱ヲ掲ケテ第一類ニハ之ヲ揭ケス蓋シ本文ニ注意ノ文字アルニ由ルナラシ然レトモ前後ノ文體不倫ナルカ如シ是レ第一類ノ下ニ注意藥ノ分注ヲ加フル所以ナリ
第二條 第一類藥品ハ其性効ノ峻劇ニ拘ハラズ若シ精真ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品(收斂ニ他物ヲ混ニシタル純精ナラサルモノ)製造上ニ或ハ採(採)ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス
 但藥舖ニ於テ自ラ其真否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試驗ヲ受クルコトヲ得
第三條 第一類中ノ粗製品ニハ藥用ト爲スヘカラス、ハト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ非藥用トシテ販賣スルコトヲ得
 (院議) 第二條ニ粗製品ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラストアリ則チ粗製品ノ藥用ト爲スヘカラスアル知ル可キナリ更ニ本條ニ之ヲ再言スルヲ要セス是レ本條粗製品ノ下ニシテ藥用ト爲スヘカラスアルモノノ十五字及ヒ非藥用トシテ六字ヲ刪除セル所以ナリ
第四條 第二類(毒)第三類(毒)ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス
 但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交附スヘカラス
 (院議) 第二類ノ毒藥タリ第三類ノ劇藥タルコトハ第一條既ニ之ヲ明ニス重テ其注釋ヲ要セス本條若シ之ヲ要セハ第五條モ亦之ヲ要スヘシ隨テ第二條第三條モ亦注意藥ノ三字ヲ加ヘサルヘカラス是レ本條ノ分注ヲ刪除セル所以ナリ
第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ
 但醫師ノ處方書ニ據ラシテ密封ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密封印スヘシ
第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ價品(故意ニ他物ノ物品ヲ本品ニ混シテ或ハ名義量換置スル者)ヲ液入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第

- | | | |
|----------------|----------|-------------|
| 格倫僕末 | 白桂枝末 | 益智子末 |
| カラムニイベチシクト末(草) | 加斯加栗刺皮末 | 加密列花末 |
| 桂皮末 | 胡安子末 | コロシ芥末(草) |
| 畢澄茄實末 | 獨羊泉末 | 瓦爾拔奴謀建質亞那根末 |
| 土木香根末 | 蒜蘆根末 | 吐根末 |
| 伊里斯非魯連底那根末 | ニクランシス葉末 | 苦蘇末 |
| 毒性萬葉末 | 落別里亞末 | 麻失斯末 |
| ヘルラントリアクニアト | ホリガラ根 | 括失亞末 |
| 刺答尼亞根末 | 撒拔實兒刺實末 | 薩那那葉末 |
| 接骨木花末 | 撒綿施那末 | 沙保那利亞根末 |
| 撒爾沙根末 | 薩沙布羅斯末 | 蘇甘母扭謨根末 |
| 海葱根末 | 遠志根末 | 蒲那葉末 |
| 撒爾扁答里亞根末 | 亞瑪爾拔皮末 | 蒲公英根末 |
| 吐根舍利別 | 聖粟殼舍利別 | 大黃舍利別 |
| 枚方撒爾沙根舍利別 | 遠志舍利別 | 旃那舍利別 |
| 亞爾尼加丁幾 | 益智子丁幾 | 彌箇丁幾 |
| 格倫僕丁幾 | 吐根丁幾 | 加斯加栗刺丁幾 |
| 葛斯篤僕丁幾 | 麻矢斯丁幾 | 毒性萬葉丁幾 |
| 落別利亞丁幾 | 大黃丁幾 | 括矢亞丁幾 |
| 刺答尼亞丁幾 | 吐根錠 | 薩那那丁幾 |
| 遠志丁幾 | 海葱酒 | 芳香酒 |
| 吐根酒 | 混和劑上 | 乳劑上 |
| 擦劑上 | 丸劑上 | 粘骨劑上 |
| 糞劑上 | 乳精上 | 飲劑上 |
| 散劑上 | 舍利別上 | 海綿類 |
| 津劑上 | | 龍動鐵丁幾 芳香酒 |

内務省衛生局指令 十三年六月十五日
書面議決上申之趣聽認候事

内務省ヨリ東京大阪横濱長崎司藥場へ達 十三年七月十七日(官廳門官制)
今般司藥場試驗條例別冊ノ通改定候條此旨相達候事

司藥場試驗條例ヲ改定ス
十九年六月内務省令第十

註チ以テ日本藥局方ヲ定ム

(別冊)

司藥場試驗條例

第一條 凡ソ藥物ノ試驗ハ追テ日本藥局方制定ニ至ル迄左ノ方法ニ據リ施行スヘシ

第一項 内國製藥物及ヒ外國製ニシテ其出所詳ナラサル藥物ノ中藥品取扱規則第一類ニ屬スルモノハ別冊試驗法ニ據リ其他ノ藥品ハ各國藥局方ヲ參照シテ其良否ヲ判決スヘシ

第二項 外國製藥品ニシテ出所分明ナルモノハ成ルヘク其本國ノ藥局方ニ據リ其良否ヲ判決スヘシ
第三項 前二項ニ遵據シ難キモノ或ハ遵據スヘカラスト認ムルモノアルトキハ其意見ヲ具シテ衛生局長ノ判決ヲ受クヘシ

第二條 試驗濟ノ藥品ハ左ノ通り區別シテ印紙ヲ貼附スヘシ

第一項 凡テ外國藥局法ニ掲載セル藥物ノ良品ハ許醫藥用印紙ヲ貼附スヘシ

第二項 藥品取扱規則第一類藥物ノ不良品及ヒ外國藥局方藥物ノ價製或ハ腐敗セルモノハ禁醫藥用印紙ヲ貼附スヘシ

第三項 藥品取扱規則第一類表外ノ藥品ニシテ外國藥局方ニ掲載スル所ノ粗製品ハ不適醫藥用ノ印紙ヲ貼附スヘシ

第四項 外國藥局方ニ載セサル藥物ニシテ良品ノ徵アルモノハ司藥場検査濟ノ印紙ヲ貼附スヘシ
第五項 第二項第三項及ヒ第四項ノ不良品ハ其事由ヲ告示箋ニ記スヘシ

第三條 試驗濟ノ藥物中其禁不適及ヒ不良トスルモノハ每一月分每品其事由(何氏試驗法及ヒ)并ニ番號藥名商標願人氏名ヲ詳記シテ照考ノ爲メ各場互ニ通知スヘシ

但許醫藥用印紙ヲ貼附シタルモノト雖モ其品位許否ノ境界ニ近クシテ或ハ疑似ニ涉ルノ虞アルモノ其他至急通知ヲ要スルモノアルトキハ臨時通知スヘシ

第四條 藥物試驗ハ總テ九等試藥師以上ノ擔任ニシテ場長終始之ヲ監督シ禁許等ノ判決ヲ爲スモノト

ス
但場長モ執務ノ繁簡ヲ計リテ自ラ分析ノ事ヲ執ルヘク九等試藥師以上ノモノハ十等試藥師以下ノモノヲ助手トナスヲ得ヘシ

第五條 藥物試驗ヲ願出ルモノアルトキハ事務掛ニ於テ願人ノ住所氏名取引先キ等ヲ記載シタル願書ト藥名員數等ヲ調査シ不都合ナキヲ認メテ領收書ヲ渡スヘシ而シテ詳ニ之ヲ受付簿ニ登録シ且ツ番號ヲ記シ然ル後場長ニ差出スヘシ

第六條 場長ハ其藥名商標員數番號月日ヲ帳簿ニ登記シ九等試藥師以上ヲ撰ンテ主任トナシ之ヲ試驗セシムヘシ

第七條 試藥師ハ場長ヨリ分任スル處ノ藥物ヲ詳細検査シ其成績ヲ場長ニ明陳シテ許禁等ノ判決ヲ受クヘシ

但場長ノ意見ニヨリ更ニ他ノ試藥師ニ命シ再三試驗セシムルコトアルヘシ

第八條 場長ハ前條ニ掲クル試驗ノ成績ヲ試藥師ヨリ具陳スルトキハ其成分反應ヲ詳細審査シ自己ノ試驗簿ニ許禁等ノ次第ヲ記シテ之ヲ該主任ノ試藥師ニ示スヘシ

第九條 試藥師ハ場長ノ示シタル判決ノ次第ヲ場長ノ簿冊ト毫モ違ハサル様自己ノ簿冊ニ謄寫シ該藥品ト共ニ事務掛ニ送附スヘシ

但禁不適及ヒ不良ノ藥品ハ其事由ト自己ノ氏名ヲ告示箋ニ記載シ捺印シテ場長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ事務掛ニ送附スヘシ

第十條 事務掛ハ右ノ藥物及ヒ告示箋ヲ受取り番號ヲ照査シ許禁等并ニ月日等ヲ受付簿ニ登記シ印紙貼附ノ手續ヲ爲シテ之ヲ願人ニ下ケ渡スヘシ

右之通相定候事

内務省衛生局添書 十三年七月十九日

司藥場藥品検査表々式

今般御達相成候司藥場試驗條例第一條中第一類藥品試驗法ノ儀ハ即今取調中ニ付追テ確定ノ上可及廻付此段申添候也

内務省衛生局所定 十三年月日明
司藥場藥品検査表

藥		第一類注意藥		何司藥場	
藥名	藥名	許	禁	内國	外國
計	計	許	禁	品	品
第二類毒藥		第一類注意藥		何司藥場	
藥名	藥名	許	禁	内國	外國
計	計	許	禁	品	品
第三類劇藥		第一類注意藥		何司藥場	
藥名	藥名	許	禁	内國	外國
計	計	許	禁	品	品

藥品検査告示改正
十六年十月二十二日衛生
局所定ヲ以テ改正ス

内務省衛生局所定 十四年七月一日
改正藥品検査告示箋書式

合 計	通 常 醫 藥	第 三 類 劇 藥	第 二 類 毒 藥	第 一 類 注 意 藥	藥 藥		藥 藥	
					名 名	名 名	計 計	計 計
〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃	〃〃〃
					通常醫藥		計禁許 計禁許	

此内彩紋... 彩紋畧之

内務省衛生局

何司藥場

何司藥
場之印

告示

日本帝國

割印

此藥品ハ、
ニシテ我帳簿ニ録シ第、
藥用良品ノ證ヲ得ルヲ能ハサルモノナリ

明治何年何月何日

試驗主任

場長

何等試驗師

何等試驗師

姓名印

姓名印

長崎司藥場ヲ廢止ス

內務省布達 十四年七月二十二日(官廳門官制) 今般長崎司藥場相廢候條此旨布達候事

(備考)

內務省衛生局第七次年報抄錄
長崎司藥場ハ同港輸入ノ醫藥藥品取締ノ爲明治九年八月中ニ設ケラレシカ同港ニテ藥品ノ貿易ハ漸ク衰微シ且ツ九州地方モ多クハ大阪司藥場試驗濟ノ藥品ヲ輸送シ同場試驗ノ數ハ逐日減少シテ凡ソ東京、横濱ノ二三十分一大阪ノ二百分一許ニ過キサルノ景況ニ就キ寧ロ同場ヲ廢シ其人員ト金額トヲ大阪其他ノ司藥場ニ加ヘハ便益ヲ得ンコトヲ具申ノ上裁可ヲ得之ヲ廢シ七月二十二日甲第六號ヲ以テ布達セラル

大日本製藥會社へ命令

內務省ヨリ大日本製藥會社へ命令 十六年五月二日

製藥工場及ヒ之ニ屬スル土地建物別紙之通明治十七年五月ヨリ向二十年間其社へ貸渡藥品製造ノ事業執行セシメ候條左ニ掲クル命令ノ趣旨堅ク遵守可致事

命令書

- 一 其社ハ金十萬圓ヲ募集シテ營業資本金ニ充ツヘシ
- 一 其社ハ衛生局長ノ監督ニ屬シ製藥ノ品種及ヒ標度ハ同局長ノ指定スル所ニ從フヘシ
- 一 傳染病流行等藥品缺乏ノ場合ニ於テ其價格非常ニ騰貴スルトキハ衛生局長ハ其社製藥品ノ價ヲ制限シ之ヲ販賣セシムルコトアルヘシ
- 一 衛生局長ハ工場監督一名ヲ置キ其社製藥ノ實業ヲ監督セシムヘシ
- 一 其社正副社長ハ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ
- 一 其社正副社長ハ內務卿ノ認可ヲ得ルニ非サレハ上任スルコトヲ得ス
- 一 內務卿ハ臨時官吏ヲ派出シテ其社ノ業務ヲ監査シ且帳簿ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ
- 一 衛生局長ハ藥品ノ試製若クハ特ニ藥品ノ製造ヲ其社ニ命スルコトアルヘシ但其費用或ハ代價ハ相當

十七年四月四日內務省命令ヲ以テ命令書ヘ追加ス

ノ額ヲ定メ之ヲ給スヘシ

一 製藥工場貸渡中ハ工場機械其他附屬物ノ修理補繕ハ一切其社ニ於テ負擔スヘシ若シ其修繕ヲ怠ルトキハ衛生局長ハ直チニ之ヲ行ヒ其費用ヲ償還セシムヘシ

一 此命令書ノ趣旨ニ違背シタルトキハ內務卿ハ何時ニテモ命令ヲ解キ工場ヲ引拂ハシムヘシ

大日本製藥會社定款

大日本政府ノ特許ヲ得テ大日本製藥會社ヲ創立スルニ付株主一同協議決定スル所ノ定款左ノ如シ

第一章 總則

第一條 當會社ノ名稱ハ大日本製藥會社ト稱スヘシ

第二條 當會社ハ政府ノ特許ニ據テ創立スルモノナルヲ以テ爰ニ添付セル內務卿ノ命令書ヲ遵奉ス可シ

第三條 當會社ハ有限責任トシ當社ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止ルモノトス

第四條 當會社ハ政府ヨリ貸下ケラレタル工場機械ニ據リテ製藥ノ業ニ從事シ公衆ノ需用ニ供スルノ目的トス

第五條 當會社ノ營業期限ハ二十箇年トス但シ滿期ニ至テ株主ノ衆議ヲ以テ更ニ政府ノ特許ヲ得ルニ於テハ之ヲ永續スルコトヲ得ヘシ

第六條 當會社ノ營業ハ此定款ニ據テ之ヲ社長及取締役ニ委任ス可シ

第二章 資本金

第七條 當會社ノ營業資本金ハ十萬圓トシ之ヲ一千株ニ分チ一株ヲ百圓ト定ム可シ然レトモ株主衆議ノ上政府ノ許可ヲ得ルニ於テハ之ヲ增加スルコトアル可シ

第八條 當會社株金ハ株式申込ノ時二割ヲ拂入レ餘ハ二箇年ヲ目的トシ會社ヨリ廣告スル毎ニ拂入ルモノトス但此報告ハ少モ六十日以前ニ爲ス可シ

第三章 製藥及營業

第九條 當會社製造及營業上ノ細則ハ内務卿ノ命令書及此定款ニ準據シ重議ニ於テ之ヲ定ム可シ
第十條 當會社製藥ノ種目標度等ハ衛生局長ノ指定セラル、モノニ從フヘシト雖モ其範圍内ニ係ル製造上ノ諸件并ニ營業上ニ關スル諸項ハ時時重役會議ニ於テ商議施行スヘシ

第四章 役員及責任

第十一條 當會社ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

- 社長 一名
- 副社長 一名
- 取締役 三名
- 支配人 無定員
- 簿記 同
- 書記 同
- 手代 同

第十二條 社長ハ本社ノ事務ヲ總轄シ營業上一切ノ責ニ任ス

第十三條 副社長ハ社長ヲ輔佐シ社長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス可シ

第十四條 取締役ハ本社一切ノ行務ヲ監察シ意見ヲ社長ニ陳フルモノトス且每週少クモ一回ハ重役會議ニ出席ス可シ

第十五條 取締役ハ其同役中又ハ正副社長ニ於テ職任不適當ノ行爲アリト認ルトキハ同役又ハ正副社長ノ同意ヲ得テ株主臨時總會ヲ催スノ權アリトス但此場合ニ於テハ其理由ヲ株主ニ證明ス可シ

第十六條 支配人ハ社長ノ指揮ニ從ヒ本社ノ事務ヲ分擔ス可シ

第十七條 簿記書記諸手代ハ上役ノ指圖ニ從ヒ社務ニ從事スルモノトス

第十八條 當會社ノ役員ハ三十株以上ヲ所持スル株主ノ中ヨリ取締役五名ヲ撰擧シ此取締役ノ複撰ヲ以テ正副社長ヲ定メ之ヲ内務卿へ上申シ認可ヲ得テ上任スルモノトス

第十九條 正副社長及ヒ取締役ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ二人若クハ三人ヲ改撰ス此場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得可シ
但第一回改撰ノ節ハ抽籤法ヲ以テ其退任ヲ定ム可シ

第二十條 正副社長取締役ニ撰任サレタル者ハ當會社ノ規則ヲ守リ正實ニ職任ヲ盡ス可キ誓約文ヲ作り之ヲ會社ニ出シ置クヘシ但在職中其所有ノ株式ヲ他へ賣讓スルコトアルモ正副社長ハ三十株取締役ハ十五株ヲ據置キ在任中ハ賣讓スルコトヲ得サルモノトス

第二十一條 正副社長取締役ノ月給及ヒ社員ノ賞與ハ株主ノ衆議ヲ以テ之ヲ決シ支配人以下ノ月給ハ重役會議ニ於テ之ヲ定ム可シ但役員賞與ノ割合ハ株主衆議ニ於テ定ムト雖モ之ヲ分配スルハ重役會議ニ任ス可シ

第二十二條 支配人ハ重役會議ニ於テ其人員ヲ定メ株主タルト否トニ拘ハラズ適當ノ人ヲ撰任ス可シ

第二十三條 簿記書記手代以下ノ諸雇員ハ社長之ヲ撰任シ其進退黜陟ヲ司ル可シ但其人員給額ハ預メ重役會議ニ於テ之ヲ定ム可シ

第二十四條 正副社長及ヒ取締役ノ會議ヲ重役會議ト稱スヘシ但此會議長ハ正副社長ノ内之ニ當リ事故アルトキハ取締役ノ中ニテ之ヲ勤ムヘシ

第五章 株主權利及責任

第二十五條 何人タリトモ(我國法ノ遵奉セサル人民ヲ除ク)外當會社ノ定款ヲ承認シテ株式ヲ引受ル者ハ株主タルコトヲ得ヘシ

第二十六條 當會社ノ株主ハ其引受タル株式一箇ニ付株券一通ヲ渡ス可シ

株券雛形

大日本製藥會社株式
大日本帝國政府内務卿ノ命令書ヲ遵奉シテ創立

シタル大日本製藥會社ノ定款ニ從ヒ明治十年
 月 日ヨリ我大日本製藥會社株式ノ内百圓即
 チ一株ノ株主タルコト相違ナキ證據トシテ此株
 式券狀ニ當社ノ印章ヲ押捺シ之ヲ付與スルモノ
 也

年 月 日

大日本製藥會社

社長 取締役

何ノ誰殿

第二十七條 當會社ノ株式ハ重役會議ノ承認ヲ受クルニ非サレハ賣買讓與ヲナスコトヲ得ス
 第二十八條 當會社ハ株帳ヲ製シ株主ノ姓名族籍宿所株式ノ番號及其賣買讓渡シノ年月日ヲ登錄シ置
 クヘシ
 第二十九條 株式ノ賣買讓渡ヲ爲ストキハ之レヲ會社ニ申出承認ヲ受ク可シ若シ此手續ヲ爲サ、ル間
 ハ會社ヨリ割渡ス可キ利益金ハ株券ノ名前人ニ渡ス可シ
 第三十條 株主其姓名ヲ變スルカ又ハ族籍宿所等ヲ轉スルトキハ明細書ヲ以テ會社ヘ申出ツ可シ
 第三十一條 株券ヲ磨損シ又ハ燒失紛失等ノ故ヲ以テ其書替及更ニ受取方ヲ望ム者ハ其事實證明ナル
 ニ於テハ二人以上ノ保證人ヲ立タル上之ヲ渡ス可シ
 第三十二條 株主ハ當會社ノ資本主ニシテ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スルモノナルカ
 故事業ノ景況ニ注目シ何時ニテモ諸帳簿等ノ檢閲ヲ求ムルノ權利アルモノトス
 第三十三條 株主ハ正副社長取締役ノ職任ニ於テ不適當ノ行爲アリト認ムルトキハ第四十七條ノ手續

ヲ踐ミ臨時總會ヲ催シ三分ノ二以上ノ衆議ヲ以テ之ヲ解任スルノ權アルモノトス

第三十四條 株主ハ總會議ニ於テ發言投票ヲ爲スニ當リ其所有株數中一株ヨリ十株迄一說一票十株以
 上五十株迄二株毎ニ一說一票五十株以上百株迄五株毎ニ一說一票百株以上二百株迄十株毎ニ一說一
 票ヲ増加シ一人ニシテ五十票ヲ極度トシ其以上ハ發言投票ノ權ヲ有セサルモノトス

第六章 製藥技手

第三十五條 製藥技手ハ社長ノ指揮ニ從ヒ本社製藥ノ事業ヲ分擔ズ可シ

第三十六條 製藥技手ハ重役會議ニ於テ其人員ヲ定メ適當ノ人ヲ撰任シ工場ニ雇使スル諸工夫ハ社長
 之ヲ撰雇シ其進退黜陟ヲ司ル可シ

第三十七條 製藥技手及諸工夫ノ俸給賞與ハ株主衆議ニ於テ豫額ヲ定メ其措置ハ重役會議ニ任ス可シ
 第三十八條 製藥技手ハ總テ日本人ヲ採用ス可シト雖モ當分ノ内其模範ニ供センカ爲メ外國人ヲ雇入
 レントスルトキハ豫メ之ヲ政府ニ稟請シ許可ヲ受ク可シ

第七章 計算

第三十九條 當會社ハ總テ複記ノ法ヲ以テ明細ナル帳簿ヲ製シ置キ政府ノ検査官又ハ株主ノ檢閱ニ供
 ス可シ

第四十條 當會社ノ損益計算ハ毎年一月七月兩度トナシ株主總會ニ報告シ利益金ノ配當ヲ爲ス可シ
 第四十一條 當會社ハ政府ヨリ貸下ラレタル工場機械修繕ノ準備トシテ機械建物原價百分ノ五ヲ收入
 金ノ中ヨリ積立置ク可シ

第四十二條 當會社收入金總額ヨリ一切ノ費用及ヒ積立金ヲ除キ殘金ヲ以テ純益トナシ其内ヨリ社員
 及技手等ノ賞與金ヲ引去リ其餘ヲ株高ニ割合配當ス可シ

第八章 例式及臨時總會議

第四十三條 例式總會議ハ毎年一月七月兩度之ヲ開クヘシ
 第四十四條 臨時總會議ハ其會日ヨリ少クモ三十日前ニ議案ヲ附シテ招集ノ報告ヲ爲スヘシ